

芸術科 学習の手引き

1. 芸術科の目標

芸術の創造的な諸活動を通じて、生涯にわたり芸術を愛好する心情と芸術文化を尊重する態度を育てると共に、感性と美意識を磨き、個性豊かな芸術の能力を高める。

2. 教科の一般的評価の観点

音楽科	実技（歌唱，器楽）
美術科	課題作品の創作、提出
書道科	課題作品の創作、提出

3. 芸術科の3年間の体系

本校での芸術科目の選択は、選択必修科目として音楽・美術・書道の中から1科目を選択します。1年次で芸術科目（Ⅰ）の2単位を履修し、2年次では継続して同じ芸術科目（Ⅱ）の2単位を履修します。ただし、外国語科の2年次は芸術科目と数学の選択になります。その際、芸術科目内では一度選択した科目を変更することはできません。

音楽科： 音楽の学習は「表現」と「鑑賞」という2つの大きな領域から成り立っています。その具体的な内容は「表現領域」では独唱から混声合唱まで行なう〔歌唱〕・リコーダー等による〔器楽アンサンブル〕・自由で豊かな発想を目標とする〔創作〕などです。

一方「鑑賞領域」では、視聴覚教材等を利用しながら幅広いジャンルの音楽を鑑賞するとともに、「楽曲研究」を行ない、音楽に対するより深い興味・関心を持つことを目標として学習していきます。

美術科： 美術では様々な美的活動を通じて創造的表現力を伸ばし、美術を生涯にわたり愛好する心情を養うことを目標としています。1年次では絵画やデザインを中心に空間構成力や色彩感覚を身につけます。2年次では絵画、彫刻を中心に学習します。自分自身が感じたことや考えたアイデアを素直に表現したり、芸術作品に自ら積極的に触れ感動したりすることが大切です。

書道科： 書は古くから人間精神の美的表現として文学や音楽とともに尊重されてきた芸術です。西洋にはない書の芸術の一ジャンルが成立し、意味のある詩や文章を書くもので、文学的要素も加わりさまざまな要素の上に成立する芸術です。1年次では書の基本を学びます。永い歴史の間にさまざまに発展し変遷してきた漢字を学び、また草書から生まれた仮名も学びます。2年次では、1年次で学んだものよりも少し高度なものを学び、鑑賞もします。書を通して芸術科の目標であることが身につけられることを望みます。